

寄贈資料展示 砂町の遊覧船

現在、コロナ禍で旅行・レジャー施設などに出かける機会が少ない状況です。江東区域のレジャー施設として、戦前から戦後まもなくにかけ、砂町地区の沿岸部には海水浴場が設けられ、賑わいを見せていました。

それ以外にも区へ寄贈された資料の中には、戦前に運航されていたと考えられる遊覧船の旗が残されており、今回はそれを紹介します。

最後になりましたが、貴重な資料を寄贈していただいた方へ改めてお礼を申し上げます。

展示資料(東京砂町遊船組合旗)について

今回展示しているのは、上下に「東京砂町遊船組合」とあり、中央部に組合の旗印と推定されるものが印刷された旗です。寄贈者の家は、東砂にあり、海苔養殖を営んだほか、戦前は夏季に海の家や遊覧船を営業していたとのことでした。

「組合」とあるように複数の業者があり、遊覧船を営業していたようですが、『江東区史』や戦前に編さんされた『城東区史』・『砂町誌』では言及されていません。釣り船とも違うかと推測されます。遊覧船の営業形態については、新たな資料の発掘が待たれます。



東京砂町遊船組合旗（戦前か）